NPO法人棚田ネットワーク会報誌　第130号

# 棚田に吹く風

2024
冬
Winter
季　刊

2 特別寄稿
小さなきっかけの集積から「天皇杯」受賞までの軌跡

5 フォトエッセイ
美しい棚田との出会い

6 エコプロ2023
出展レポート

8 森の恵みと棚田で地域おこし
生きもの屋の里山考

9 棚田博士は今日も行く
鳥海山南西麓　日本海を望む棚田
山形県遊佐町白井新田

12 読者のひろば

14 棚田俳壇
スタッフのつぶやき

15 Project Report

特集　特別寄稿

# 小さなきっかけの集積から「天皇杯」受賞までの軌跡

## ～一人の交流人口だった私と、棚田との関わりを通じて～

文・写真
長野県上田市
玉崎 修平

1・2：棚田オーナーだった頃／3：棚田CAMP

### 誰も知らない稲倉（いなぐら）の棚田

私が棚田ネットワークに初めて顔を出したのは、15年前（2008年）だったと思います。テレビ東京のWBSで「棚田オーナー制度」を紹介したニュースを視聴し、長野県上田市「稲倉の棚田」のオーナーとなって、都内でも棚田保全活動を行う団体に参画したいと考えたのがそもそもの始まり。15年前当時、稲倉の棚田は、棚田ネットワークでも訪問経験があったのは中島代表のみという無名の存在。実際、上田市民もほとんど知らないような棚田でした。

1999年「日本の棚田百選」認定により、豊殿（ほうでん）地区振興会（現まちづくり協議会）の方針で、稲倉の棚田を保全しましょうと決まったは良いが…。多くの棚田地権者は、作業効率が悪く、収量も少ないがゆえに手放した棚田での肥培管理を、百選認定どうこうで作業を強いられるのはまっぴらごめん！見たくもない！というのが本音。（気持ちはわかる）

そこで、豊殿地区振興会と自治連の有志、JA、行政関係団体を統合し、棚田を地権者に代わり管理する体制でスタートしたのが、稲倉の棚田保全委員会（以下「保全委員会」と称する）だそうです。その後、棚田オーナー制度を導入しましたが、オーナーは20組前後。日々の肥培管理は上田市農政課の担当者が自ら耕運機を動かしている状態。先行き見えない混沌の中、それでも棚田を復活し、上田市の宝にしていけたらと考え、出来ることからの情報発信として、活動記録を熱心にブログ発信されていました。

当時、全国的に導入されつつあった棚田オーナー制度も、各々の地域が個別に発信し、情報集約したポータルサイトが無い状態。そんな時に、稲倉の棚田のブログに出会った一人が私でした。

### 交流から関係、そして当事者へ

当時の私は、棚田に関する知識もなく、どこが景勝地として有名なのかも知らない全くの素人。

## 棚田オーナー推移

| | 棚田米オーナー | 酒米オーナー |
|---|---|---|
| H18 | 13 | |
| H19 | 15 | |
| H20 | 18 | |
| H21 | 27 | |
| H22 | 35 | |
| H23 | 35 | |
| H24 | 31 | |
| H25 | 35 | |
| H26 | 24 | |
| H27 | 24 | |
| H28 | 42 | |
| H29 | 50 | 20 |
| H30 | 47 | 15 |
| R1 | 37 | 21 |
| R2 | 59 | 34 |
| R3 | 66 | 30 |
| R4 | 81 | 52 |
| R5 | 95 | 80 |

4・5：焼芋FIREの様子／6・7：棚田で学ぶ子どもたち

## 棚田米オーナー3つのプラン

**❶棚田エリアオーナー**【先着5組】
占有の田んぼ。その田んぼで育てられたお米を提供
- 年会費：110,000円（税込）
- 面　積：約5アール（500㎡）
- お渡し：60kg

**❷棚田サポーター**【先着60組】
共通の田んぼで、一緒に農作業体験、サポーター同士の交流が図れる
- 年会費：38,500円（税込）
- お渡し：30kg

**❸棚田ファン**
気軽に体験してみたい方や、保全活動に協力したい方
- 年会費：11,000円（税込）
- お渡し：900g[真空2合パック×3個]
  割引チケット3,000円相当

ブログをきっかけに稲倉の棚田オーナーになったわけですが、初めて参加した田植えでの、澄み渡たり青々と連なる山々の景色、掻き回された土と新緑の匂い、素足に伝わる生暖かい泥水の感触、その全てが五感から伝わる体験に、すっかりリトリートされた感動は忘れがたく、以来、棚田ネットワークの会員となり、都内でデスクワークする友人や、小さい子供連れの家族を誘っては田植え稲刈り体験し、新米が届いたら自宅パーティーをしてお米を味わう生活が始まりました。

また、稲倉の棚田自体も2011年に県営中山間総合整備事業殿城地区の実施が決定し、2013年に「稲倉の里農村交流館」が竣工、棚田に訪れた人々が気軽にトイレなど立ち寄れるスペースが出来たメリットは大きく、そこで、農閑期の棚田でキャンプする「棚田CAMP」企画を持ち込んで2017年より開始、保全委員会や上田市役所の方々とも関係性が深まり、第3期募集の地域おこし協力隊（以下「協力隊」と称する）として、本格的に関わる事となりました。

### きっかけが回り始める

私自身の経験と保全委員会自体の方針に則して、棚田米オーナーを3つのプランに分ける事は、シンプルな管理体制とオーナー間の交流促進の両立として手始めに導入しました。

また、棚田の生態環境を長野大学の協力を得る形で見える化し、地域の小学生を生態および地域学習の場として受け入れ、棚田への愛着を地元から育む体制を構築。子供達が棚田を知り、それを両親が知る好循環が生まれています。

さらに都市住民に向けて稲倉の棚田を認知いただけるよう、ブランディングを強化。これは元々デザイナーとして活動していた私のスキルを活用し、〝見せ方〟を工夫したパブリッシュメントをベースにPR、都会では味わう事のできない体験事業「焼芋FIRE」と「泥んこASOBI」をイベント化しました。これらイベントは地域の小学校にも呼びかけ、ともに満員御礼の好評を得ており、収支も赤字にならない体制で開催。今では保全委員が中心となって、前回の反省を踏まえ打ち合わせし、工夫を重ねています。

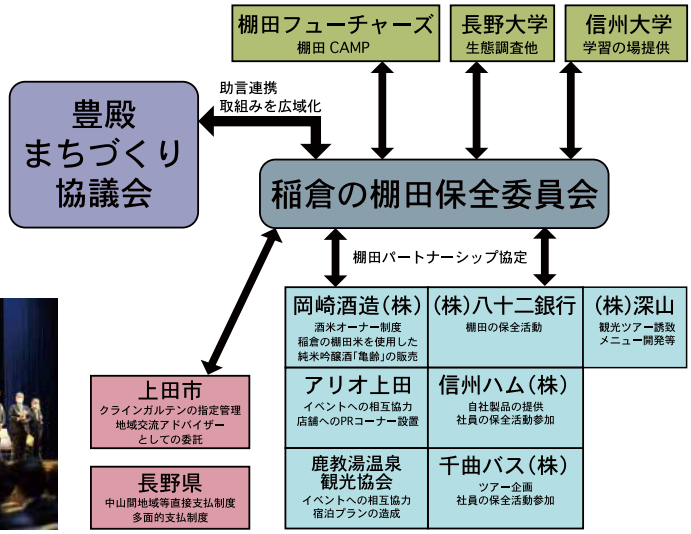
おかげさまで、練馬区報での告知をきっかけに過去最高だった2021年の棚田オーナー数96組が、翌2022年に133組、さらに2023年に175組という急成長を遂げることができています。

### 想いとスキルが集まる

きっかけを作っただけでは物事回りません。そこには、地域外から日々の保全作業に携わる人々の新規参加があります。

2020年の協力隊着任当初は地元の十数人が肥培管理に携わるのみでしたが、2021年、

10：天皇杯／11：授賞式



8：保全委員の皆様／9：竹提灯の製作風景

2022年と上田市報および信濃毎日新聞で、保全活動への有償ボランティアを募ったところ毎年30人ほどの方々が説明会に参加いただき、半数ほどが日々の作業に来ていただけるようになりました。あくまでも農作業に対する募集でありましたが、そこには棚田への想いと様々なスキルを持つ人材が集まることとなり、格段に出来ることが増えていったのです。例えば、ししおどし祭りの竹提灯製作などは、普段より民芸細工などを行うメンバーの加入により実現しました。

## 上田市・地元企業との関係性

組織が活性化すると、注目いただける組織も増えていきます。稲倉の棚田と上田市の窓口は農政課になりますが、棚田の多面的機能を活かすべく、観光課他とのつながりも徐々に増えており、また、信州棚田パートナーシップ協定の締結が、2年間で7社と関係性の構築が成されました。そこには一方的補助を求めるのでなく、自らができることと向き合いながらWINWINの体制で遂行していくスタンスで臨んでいます。

## 眺めるだけじゃない、カカワレルタナダ ～天皇杯受賞～

そんな中、上田市より、稲倉の棚田の活動状況を示す《カカワレルタナダ》をキーワードに令和4年度 農林水産祭「むらづくり部門」への応募を行なっていただき、最高賞の天皇杯を受賞するに至りました。

まだまだ課題も山積みで、持続可能な組織体制としていくにはクリアせねばならない数多くの難題があることも事実ですが、それでも稲倉の棚田を保全していくファーストステップを踏めたと思います。

## 最後に

棚田は多面的な機能（魅力）を有しますが、それらの実現には、日々の肥培管理が成り立ってこそです。しかし、軸にする考え方を「営農」だけに固執した経済的自立は全く不可能です。

日々の農作業には心許（こころもと）ない外部からの関わりも、そこは寛容の精神で（誰でも得意な分野と不得意な分野があることを認識して）受け入れる事ができる里山が、関係人口を生み出します。「若者、馬鹿者、よそ者」と言いますが、最も大切なのは『若者でも、馬鹿者でも、よそ者でも、寛大な心で受け入れてくれる地元』だと、痛感する日々です。そういった内部のカカワレル体制作りが、外部の協力者を呼び込み、そこで多様化する知識と技術が、それぞれ最大限に発揮されていくことで経済的に自立した持続可能な地域となる。

令和6年度、第29回全国棚田（千枚田）サミットの開催地が長野県上田市になります。まだまだ発展途上でありますが、活動の参考にしてもらえたら幸いですし、また一緒にやれる事があれば互いに協力して邁進できれば嬉しく思います。

久米南町北庄の棚田

フォトエッセイ

# 美しい棚田との出会い

写真・文 高田 昭雄

北庄（きたしょう）の棚田は広い面積を有し（棚田の面積は88ヘクタール）これは日本一ともいわれ、地元の小学校とも交流が盛んで「田んぼの学校」や「棚田まつり」等を開き町の活性化事業が盛んです。

この写真は、雪の下に春を待つ棚田の姿です。雪の布団をかぶり地勢を養っているように思えます。減反政策をかいくぐり今も美しい棚田風景が保たれています。

また、このすぐ南には上籾（かみもみ）という棚田があり上籾・北庄共に「日本の棚田百選」に認定されています。

この2つの地域は歴史が古く麓には、法然上人の生誕地といわれる誕生寺があります。

高田 昭雄 たかた あきお

1939年 岡山県生まれ
1971年 三つの子どもの世界 四人展（銀座ニコンサロン）
1972年 カメラ雑誌「フォトアート」招待作家
2005年 個展「橋脚になった島」（新宿コニカミノルタプラザ）
2005年 写真集『橋脚になった島』
2014年 個展「よみがえれ千枚田」（新宿コニカミノルタプラザ）
2016年 写真集『水島の記録』（吉備人出版）
2021年 写真展「恵みの川・歴史の道一小田川」
故石津良介氏に師事、協同組合日本写真家ユニオン会員

# 棚田へおいでよ！

棚田の共同出展としては8回目となるエコプロ2023。全国から6つの棚田地域、2つの県レベルの団体、2つの全国レベルの団体が集まりました。お馴染みの「クイズラリー」「棚田・里山 酒めぐり」のほか、初登場の「つなぐ棚田遺産コーナー」では棚田を応援する企業や団体を紹介、棚田の多様な魅力をアピールしました。

## 出展団体一覧

- ❶棚田ネットワーク
- ❷全国棚田(千枚田)連絡協議会
- ❸高島市の棚田（滋賀県高島市）
- ❹しずおか棚田ネットワーク（静岡県）
- ❺佐渡棚田協議会（新潟県佐渡市）
- ❻稲倉(いなくら)の棚田（長野県上田市）
- ❼かみかつ棚田未来づくり協議会（徳島県上勝町）
- ❽和歌山県棚田等保全連絡協議会（和歌山県）
- ❾棚田を守ろう会（和歌山県那智勝浦町）
- ❿第28回全国棚田(千枚田)サミット 那智勝浦町実行委員会
- ⓫東後畑(ひがしごばたけ)の棚田（山口県長門市）
- ⓬「つなぐ棚田遺産」とオフィシャルサポーター

# エコプロ2023
## 日本の棚田共同展示コーナー

2023年12月6日（水）～8日（金）
東京ビッグサイト 東ホール

## つなぐ棚田遺産とオフィシャルサポーター

初めての企画に、プレナス、ヤマタネ、梅田学園、さとふる、だるま製紙所とメディカルハーブ協会の5社1団体が参加。それぞれの取り組みをパネルやポスター、チラシで紹介しました。

### うめがくえん
宮崎梅田学園株式会社

弊社は2019年より宮崎県高千穂町の川登地区で棚田米生産を開始しました。自動車学校の教習指導員が、稲刈り、草刈り、収穫を手分けして作業しています。中山間地区の作業は平地と違い、非効率で苦労も絶えませんが、地域生産者からのサポートや棚田オーナーの方からの励ましと棚田米への評価を原動力として、これからも頑張っていきます。全国各地の棚田に関係する方々の活動を紹介する場は、これからもっと必要だと感じました。

### 「続く」を支える。ヤマタネ
株式会社ヤマタネ

この度は、「エコプロ展2023」への参加の機会をいただき、誠にありがとうございました。

弊社は、株主様とともに「越後松代棚田群 星峠の棚田」を中心に保全活動を取り組ませていただきます。今回のエコプロ展で、小学生をはじめとして多くの方々が棚田に興味があることを実感いたしました。皆様にいただきましたこのご縁を大切に、今後の棚田保全活動に役立ててまいります。引き続きよろしくお願い申し上げます。

### Plenus
株式会社プレナス

今回は貴重な機会をいただきありがとうございました。社会や環境の課題に興味を持ち、来場した多くの児童達の姿を目にし、公器としての企業の在り方を考えたことはもちろん、彼らの未来に日本の素晴らしい米文化、その原風景である棚田の景観を残せるようにと改めて想いを強くした場ともなりました。今回の活動を社内広報でも取り上げたところ反響も良く、社員のブランディングにも寄与できたこと重ねて感謝申し上げます。

# 森の恵みと棚田で地域おこし

自然体験インストラクター
岐阜県郡上市　元満　真道

## 明宝の森とエコサイクルワークショップ

私達の暮らす岐阜県郡上市明宝地区は、森の実りあふれ、アマゴやイワナが泳ぐ清流吉田川が流れる中山間地域です。少子高齢化と獣害被害に悩まされる中、地域住民の手作りで解体処理施設「ジビエ工房めいほう」を立ち上げました。そんな中、里山での獣害、都市部若者や家族層との交流、里山林保全など過疎地域課題と獣害被害を包括的に解決していく消費のエコサイクル活動に取り組んでいます。

今年で3年目となる「明宝の森とエコサイクルWS」では、年間約10回のワークショップを行い、現役の木こりさんに学び里山林保全として雑木伐採、木材引き出しとその木を炭焼きにして活用しました。また子供たちと森に入り、獣の食糞や獣害被害を確認し、里山の暮らしを体感し考えるワークショップを楽しみながら行っています。

また、本年は新しい取り組みとして、小保木地域営農組合と連携しお米作りの体験も行いました。ここは標高五五〇㍍と昼夜の寒暖差が大きいため、あまい米作りに適した気候といわれ、夏でも月夜は肌寒いくらい、その澄んだ風で育まれる棚田です。

今後も森とその近くで暮らす里山の営み、自然の豊かさと生物多様性、持続可能な（SDGs）これからの地域の在り方など、多くの課題を楽しみながら共有解決していきたいです。来年度も明宝の森WS開催予定です。どうぞ、多くのご参加お待ちしています。

# 生きもの屋の里山考

文・写真　（株）環境指標生物　松本　昇也

## 幸せ運ぶコウノトリは幸せ？

コウノトリは「幸せを運ぶ」ことで知られ、縁起がよいとされており、知らない人はいないくらい有名な鳥ではないでしょうか。全長約1・1m、翼を広げると約2mにもなる巨大な鳥です。白と黒のツートンカラーで、その容姿からツルに見間違えられることがあります。

江戸時代までは日本全国に季節を問わず分布し、東京の寺院の屋根に営巣した記録もあります。それほど身近な存在だったと推察されますが、明治以降は乱獲や戦争、営巣木の伐採、農薬による餌の汚染等により減少し、1971年を最後に日本産の個体群は絶滅しました。私がバードウォッチングを始めた1990年代には、秋から冬に大陸から稀に飛来する「冬鳥」であり、「珍鳥」だったのです。

絶滅の危険が高まった1965年、兵庫県では野生個体を捕獲し、人工飼育を始めました。残念ながら日本産の復活は叶いませんでしたが、ロシア産の個体の繁殖が順調に進み、野生復帰計画を開始しました。「再導入」後の野外で生息する個体数は今では300羽を超え、西日本を中心としつつ、関東でも繁殖するようになりました。

しかしながら、生息環境は安泰とは言えません。里山の棚田など人里で生活するため、宅地化やメガソーラー等の開発の脅威にさらされています。また、餌となる水辺の生きものが豊富な湿地がないと生きられず、農家や地域住民の理解と協力が得られなければ、本当の野生復帰は果たしえないのです。

大陸から飛来した可能性がある越冬中のコウノトリ

棚田博士は今日もイク！

中島峰広の全国棚田行脚

# 鳥海山南西麓　日本海を望む棚田

## 山形県遊佐町白井新田

鳥海山と棚田

遊佐町は山形県の北西端、鳥海山の南斜面と庄内平野の北端部を町域にしている。白井新田は町の東部に位置し、鳥海山の西麓、眼下に日本海を望む景勝の地にあることから、選定委員の一人として「つなぐ棚田遺産」に選んだ時点から、是非訪ねてみたい棚田の一つとして注目していたところだ。

2023年、ゴールデンウイーク明けに白井新田の藤井を訪ねた。早朝6時に東京駅を発ち、上越新幹線の「とき」で新潟へ向かう。すべての路線が高架になった新潟駅では隣のホームで待つ羽越線の特急、秋田行きの「いなほ」に乗り換える。列車は、まず阿賀野川を渡り、新発田までは東進、その後は日本海沿いを北上する。笹川流れの景勝地を過ぎれば山形県の鼠ヶ関、やがて広々とした水田が広がる庄内平野だ。鶴岡に入ると、いまだ真っ白の月山と残雪を頂く鳥海山が姿を現す。内陸盆地群の水を集める最上川の鉄橋を渡れば酒田、次の停車駅が目的地の遊佐である。10時40分に到着した。

駅からは県道60号を街はずれまで東進すると、大きな鳥海山が目の前に現れる。左折、月光川を渡り、防雪柵のある農道を北上、高瀬川手前の交差点を右折して野沢の集落に入る。郵便局とお寺を左に見ながら、山に向かって緩い坂道を登って行けば、白井新田の整然とした棚田のなかを通り、藤井集落の中心部に到達する。当日は20年前から親交のある山形県庁を退職して農村づくりプロデューサーになっている高橋信博さんが出迎えてくれ、藤井集落の公民館まで案内して下さった。

### 圃場整備された整然とした棚田

棚田は、集落の下標高90～170㍍に1枚がおよそ20×100㍍の区画で整然と分布、農水省の個票によれば斜度20分の1、面積101㌃、枚数164枚、法面は土坡となっている。これは昭和53年4月から59年に行われた団体営による藤井地区圃場整備事業の面積にほぼ一致している。役所から頂いた空中写真によると、1列に34～52区画の棚田が14列あり、仮に1列45

中島 峰広（なかしま みねひろ）（棚田博士）

早稲田大学名誉教授。学術博士。NPO法人棚田ネットワーク名誉代表。全国棚田（千枚田）連絡協議会理事、棚田サミット開催地選定委員会委員長。1933年宮崎県生まれ。早稲田大学教育学部地歴科卒。2004年まで早稲田大学教育学部教授。著書に『日本の棚田―保全への取組み』『百選の棚田を歩く』『続・百選の棚田を歩く』『棚田 その守り人』（以上、古今書院）。現在、百選外の棚田についての執筆準備のため全国行脚中。

区画とすれば630枚になり、個票の枚数よりかなり多い。しかし、1枚が20アールであるから全体の面積は126ヘクタールとなり個票の面積に近い数字になり、これでよいのかもしれない。

各列とも縦20メートル×横100メートルの棚田がきっちりと揃って並んでいる。したがって、縦20メートルであるから仮に土坡の高さが1メートルであれば傾斜20分の1で自ずと棚田になる。実際には集落に近い山側では法面の高さは2メートル前後、集落から遠い海側でも1メートル前後はあるので立派な棚田だ。主たる用水は鳥海山からの湧水が利用され、4個の温水溜池で温められたものが利用されている。海側をみると平地の水田の先に南北に黒々とした庄内砂丘が横たわり、さらにその先に日本海が広がっている。晴れた日には左手に佐渡、粟島、右手に飛島が見えるそうだが、当日は霞んでいて確認することはできなかった。

## ふじい21世紀組合 役員の皆さん

公民館には中山間地域等直接支払制度の組織である「ふじい21世紀組合」の役員が集まっていた。組合長は69歳の金野勝彦さん。高校を卒業してから重機を使った採石業に5年間従事した後、専業農家になった。水田2・8ヘクタールを所有、他家から10アール当たり9000円支払って5ヘクタールを受託、合計7・8ヘクタールを耕作、150アールの畑では山菜のウルイを栽培しているという。所有する機械類はトラクターが4台（18・33・41・48馬力）、乗用8条田植機1台を所有、コンバインは5条刈2台、4条刈1台を共同で所有し利用しているそうだ。

副組合長は阿部浩さん62歳、高校を卒業後上京、早稲田鶴巻町に8年間住み、専門学校などに通った後、26歳の時に帰郷、就農した。現在水田4ヘクタールを所有するほか転作田17ヘクタールを10アール当たり5000円で受託、大豆・ソバなどを栽培している。機械類はトラクター5台（32・33・34・62・65馬力）を所有している。台数が多くなるのは作業の種類によって装着する機械が異なるので取り換える必要がないようにするためだそうだ。田植機は乗用8条植1台を所有、収穫は刈取り組合に作業を委託しているという。

この人にはもう一つ重要な顔がある。遊佐町共同開発米部会監事、JA庄内みどり遊佐生活クラブ提携産地協議会の代表という肩書である。遊佐町の産米8万5千俵を扱い60キロ当たり1万5400円で出荷しているそうだ。

会計を務める斎藤武さん49歳は異色の経歴を持つ農家だ。東京都台東区谷中で彫金業を営む家に生まれた。東京農業大学を卒業後、2年間北海道岩見沢の農家で修業した後、26歳の時に父親の故郷遊佐に来住、50アールの農地を取得して農家に

1：田子越しの水路／2：湧水を温める溜池／3：圃場整備された方形の棚田／4：棚田の米屋／5：筆者（左から3人目）と「ふじい21世紀組合」のメンバー／6：農村づくりプロデューサーの高橋信博さん

なった。

その後行政書士の資格を取得、平成27年には町会議員になり、現在2期目を務めているそうだ。同時に水田5㌶を所有するほか10㌃当たり8000円前後の地代を払って水田を受託、計12㌶を耕作している。トラクター2台（32・34馬力）、乗用8条田植機1台、乗用4条刈コンバイン1台を所有、その経営規模や機械装備においても役員をしている人たちに比べても遜色のない堂々たる米作農家だ。

庶務担当は高橋義博さん51歳、両親と2人の娘さんが同居する賑やかな家庭。地元の高校を卒業後、新庄にある農業大学校に進学、卒業後20歳で帰郷、就農した。水田8㌶を所有するほか、10㌃当たり9000円の料金で6㌶を受託、計14㌶を耕作している。機械類はトラクター2台（27・33馬力）、乗用8条田植機、乗用5条刈コンバイン1台を所有している。

水利組合会計を務める菅原耕治さん55歳は、高校卒業後、地元で15年間採石業に従事しながら父親を助け兼業農家として水田耕作に従事してきた。40歳の頃から夏季3か月間は水稲300㌶、大豆10㌶の無人ヘリによる農薬散布を行い、冬季6か月間はタンクローリーの運転手をしている。同時に米作りも続けており、水田6・5㌶を所有、米食用5㌶、飼料用1・5㌶、合計6・5㌶のイネを栽培しているという。機械類はトラクター2台（55・75馬力）、乗用8条田植機、コンバイン6条刈を所有しているそうだ。

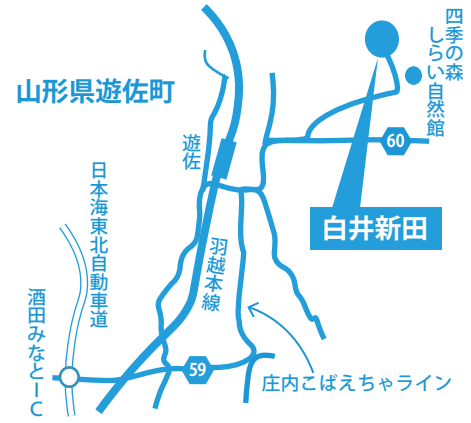
## 委託と受託に分化する農家

ところで、これまで訪ねてきた多くの棚田地域では所有する水田面積が20～39㌃という零細な規模で飯米を確保することを目的とする農家が多く、歩行型の耕耘機や田植機、バインダー、あるいは小型のトラクターや田植機を駆使して耕作していた。しかし、最近ではさらに高齢化が進み、先祖伝来の田圃を守らなければならないという思いで守ってきた棚田も他人（ひと）に委ねなければならない状況になってきているのではないだろうか。

2022年の11月に訪ねた上越市清里区棚田集落では、経営規模が小さかったが集落内で水田（棚田）を委託する農家と受託する農家に分れるという二極化が進んでいた。それが白井新田のある遊佐町藤井集落ではより大きな規模で分化が進んでいるのではないだろうか。集落の戸数43戸、そのうちの3分の2が農家として28戸、そのうちの十数戸が農地を委託する農家、そして受託する農家がお会いした5戸の他、2～3戸を加えた8戸程度というのが現在の藤井集落の実情かと思われる。

鳥海山の豊かな湧水

### 棚田へのアクセス




【公共交通】JR羽越本線・遊佐駅前からタクシー利用で棚田まで約12分

【自動車】日本海東北自動車道・酒田みなとICより県道59号、庄内こばえちゃライン、県道60号に入り1.3km地点を左折し「四季の森しらい自然館」を目指す。ICから16km

# 読者のひろば

## シンポジウム「どうする？大山千枚田」～超個人的レポート

東京都東村山市　高野 光世

鴨川の大山千枚田保存会がNPO法人になって20年（前史は5年ほど）だという。記念のシンポジウム、11月3日（金・祝）、旧大山小を転用した大会議室に、集まった聴衆は100人弱だろうか。タイトルは「どうする？　大山千枚田」。

基調講演の菅野芳秀氏は、山形県長井市（生ゴミから堆肥をつくるレインボープランが有名）で地域づくりに邁進する農家。講演のタイトルは「堂々たる田舎へ～地域を作るたすき渡し～」。50年前と比較してモノの値段は約3倍になっているのに米価は変わらないどころか下がっている現実。農機が壊れる時期が離農の時期だという現実。農の原理は循環であって成長ではない。小農こそ希望の架け橋。いちいち納得する。でも、政治が勧めるのは違う農業だという。

パネルディスカッション。壇上のコーディネーター1人とパネリスト4人。全員が男性。コーディネーター高野孟氏79歳、パネリスト菅野芳秀氏74歳、中島峰広氏89歳、長谷川孝夫氏（鴨川市長）75歳、石田三示氏（保存会理事長）72歳。そして、私を含めたシンポジウムの聴衆の多くが、世代的にはあまり変わらないように見えた。これでいいのか。いいわけがない！

言葉として語られていてもいなくても、直面している課題は少子化と高齢化なのだ。例えば、中年より下の、男「女」、がもっともっと壇上に、そして聴衆にいないと。本当に、「どうする？大山千枚田」、そして「どうする？日本」。

明快な解決策はない。特効薬もない。日本中が抱える問題であり、いかにトップランナーの大山千枚田保存会といえども解は見えていない。ただ、別な見方をすれば解はハッキリしている。政治を、国を変えるしかない。棚田に、農業に、そして「人」に、もっともっと税金を遣うこと。個人や小さなグループだけの力ではどうにもならない。生き延びようと模索する地域。政治の変化は間に合うか。闘い続けるしかない。

## 読者の声募集！

「こんな活動をしています」「こんなことやります」という皆さんの声を編集部までお寄せください！ご要望、感想やご質問でもOK！（声800字まで、レポート400字まで。写真も添えて）
〒一六〇－〇〇二三 東京都新宿区西新宿七－一八－一六 トーシンハイム新宿七〇四号「棚田に吹く風　読者のひろば」宛
メールでも受付けています ⇩ hensyuu@tanada.or.jp

## 読者のBest Shot!

### 奥能登国際芸術祭2023

富山県珠洲市　田畑 行輝

能登半島の美しい自然と伝統が息づく奥能登珠洲市を舞台に、地元の自然や歴史、伝統文化を表現した最先端の現代アートが集まる「奥能登国際芸術祭2023」が秋に開催されました。写真は作品の一つが展示された珠洲市若山町北山地域の棚田です。現在は休耕田ですが、豊かな自然が残っており、夏には蛍が乱舞する地域です。土地の神様へ挨拶し地域の方々と共に設置した作品は、美しい棚田の風景と一体となり、訪れた人々に深い感動を提供しました。また、地域に暮らす人達は、鑑賞に来られた人達との交流により、地元の魅力を再発見し、棚田地域での暮らしを知って頂く大切な機会となりました。

## 初めて参加した棚田サミット

東京都　国分寺市　水野晴美

第28回全国棚田サミットが11月18日・19日の二日間、和歌山県那智勝浦町で開催されました。秋の行楽シーズン真っ盛りですから、何かとご苦労の多い運営だったと思われます。まずはホストの那智勝浦町の皆様に感謝申し上げます。

1日目午前　オープニングはわかば保育園子供たちによる鼓笛演奏。一生懸命な姿がとても可愛かった。続いて開会式典、事例発表ではIターンで移住された戸山麻子さんが「想像力がつなぐ棚田、私たちは今」をテーマに発表。基調講演では島根県中山間地域研究センターの有田昭一郎さんが「次世代に引き継ぐための地域の体制づくり」をテーマにお話ししてくださいました。

午後からは4会場に分かれて「関係人口の承継」「集落空間の継承」「災害教訓の承継と継承」「地域振興下の棚田保全」の分科会が開かれました。私は四番目の分科会に参加させていただきました。棚田地域振興法を活用した棚田保全のお話に始まり、棚田カード・つなぐ棚田遺産などの国の取り組み、十日町地域おこし協力隊の星さんによる報告を拝聴する中、各棚田地域の皆様からは害獣被害の報告が相次ぎました。そんな中、参加されていた小学生が棚田愛を語る場面などあり和やかな雰囲気で会は締めくくられました。

18時からは事前申し込み人数限定ではありますが4年ぶりの交流会がホテルと口色川会館の2会場で行われ、和気あいあいと交流が深められました。その後、20時からはホテルの目の前の港で大掛かりな素晴らしい花火が打ち上げられ那智勝浦町の方々の棚田サミットへの熱い思いを感じました。

2日目　現地見学会と観光エクスカーション3コースがあり、私は色川の棚田に行かせていただきました。2011年の水害があった地域を越え、山の上へ上へと車は登っていきます。小さめのマイクロバスしか入れないと車を乗り換えた場所から見えた棚田と向こうに広がる山並みがとても美しかった。杵でついたお餅をいただき、しめ縄つくりを体験。農家の方のお話を伺いながら頂いたお茶がまったりしていてとてもおいしかった。

11時30分より　閉会式典が行われ無事サミットは終了しました。

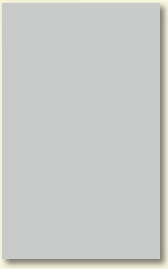
開会式

第4分科会

## 編集部イチオシ! BOOK & MOVIE

BOOK

### 怒りの葡萄



スタインベック 著
0,000円（税込）
■■■■■■
0000年0月

1930年代末に発生した干ばつと砂嵐を契機とした農業の機械化を進める資本家たちと、土地を追われカリフォルニアに移っていった貧困農民層との軋轢闘争を素材とした小説で、1930年代のアメリカ文学を代表する作品として評価されている。（Wikipediaより抜粋）

一方、今年、記録的な高温と小雨による災害に見舞われた新潟県。天水田の棚田は深くひび割れ、耕盤層は抜けてしまった。蒲生、儀明の棚田も秋耕のためトラクターで掻いても掻いても水は溜まらず、一部は冬水田んぼにならないまま雪を迎えることになった。小説と異なり、この干ばつで棚田農家が土地を追われることはない。ただ、棚田の耕作放棄が一気に進むことが懸念される。

今起きている地球規模での異常気象に翻弄される天水田の棚田農家の苦労が、この小説の主人公一家の苦悩と二重写しになる。棚田保全は、高齢化だけではなく、地球温暖化との闘いでもあることを考えさせられる。

# 第49回 棚田俳壇 令和6年

素人 しろうと 五七五

ムクドリや 帯流しおり 夕空に
蔦伸びて 伸びて色づき 秋の声
色づきし 柿の葉廻す 蜘蛛の糸
ワクチンを 打って一息秋深し
写）秋ひと日 夕陽抱きて 眠りけり
浜松市　一露

猛暑過ぎ 山田の米 出来いかに
人知れず 今年も豊作 古田あり
コーラスが ヒコバエゆらす 学校田ヒコバエ田 北から使者 一・二群
新潟市　田入絵人

頭垂れ 孤高ヒコバエ 冬の田に
夕空に 泳ぐ鯨も すぐ去りし
あさがおの 残り一輪に 秋の風
冬だより 今年も感謝 リンゴ便
所沢市　上久保郁夫

小春日や 小坂棚田の 出合いかな
猪汁で 話も弾む 秋祭り
どんぐりが 不作で 熊も悪者に
コスモスや 猛暑に耐えて 咲きにけり
取手市　杉山行男

一年の 恵みに感謝 寒肥やし
鍋囲み 友と語らう 送別会
忘年会 マスク外して 笑い合う
気がつけば 庭の虫等は 冬籠り
豊島区　小川順子

柿二つ 鳥に残して 秋陽浴び
柚子貰い 銀杏拾いて お返しに
仰山な どんぐり踏みて 熊おもふ
干し大根 入れ出し役目 小学期
陽は暮れど いつまで騒ぐ 芋煮会
おにぎりが 世界のバーガー 追いかける
世はあげて QRコードの 嵐吹く
ガザの変 三千年の 恨みつこ
調布市　高木宏明

**誌上添削**

渋柿を 二百個ほども 剥きにけり

■ヒント
二百個ほど…

【次回募集は●月末日】※解答は下記

解答例：二百個の 渋柿すべて 剥きにけり

## 棚田ネットスタッフのつ・ぶ・や・き〈輪番制〉

今回のつぶやき人 事務局 パンチョTK

11月22日は「いい夫婦の日」だという。このような「○○の日」は数多くあるが「棚田の日」は聞いたことがない。「○○の日」を仕切っている（一社）日本記念日協会のHPで検索しても存在しないようだ。あっていい、あるべきと常々思っていた。昨年、猛暑の8月26日、棚田学会シンポジウムの後、懇親会の席で農ジャーナリストの小谷さんに「棚田の日」をつくろうよ！と話したところ、棚田学会の山路先生、そばにおられた中島先生も賛同され、その場で「棚田の日」ぜひ進めよう！ということになった。

さて「棚田の日」にふさわしいのは何月何日だろうか。「田んぼに水があった方が良いから5月か6月か」「田植え後のたたずまいもいい」「実りの秋の収穫時期も」などと盛り上がった。「○○の日」は、いい夫婦（1122）など語呂合わせやら、初めて何かの事象があった日（発見、発足、開始等）などがあるようだ。例えば1999年に日本の棚田百選が制定された7月26日や、高野山文書にはじめて棚田という文字が掲載された応永13（1406）年3月晦日（末日）［この日は2024年の新暦換算で5月7日、（中島先生著『日本の棚田』や棚田学会HPにも掲載あり］はどうだろう。棚田ネット発行の『旧暦棚田ごよみ』は勿論、すべてのカレンダーに「棚田の日」が記される。それもまた棚田という言葉が世に出る一つの契機でもある。皆様、「棚田の日」どうでしょうか。ご意見をお願いします。

## 千葉県鴨川市
## 川代棚田でお米づくり

### 今年も賑やかに収穫祭!

今年は新型コロナウイルスが感染法上５類になり、参加者も例年並みに戻り無事川代の体験イベントを終了することが出来ました。参加された皆さん、スタッフの皆さんありがとうございました。私たちがお世話になっている鴨川市川代柿ノ木代棚田も、「つなぐ棚田遺産」に認定されたこともあり、オーナーも増え、城西国際大学もイベントに参加するなど川代集落挙げての取組みの熱気を感じながら活動できました。

今年は例年になく猛暑と水不足が続きましたが、ポンプによる用水の確保をするなど、地元の皆さんの努力により何とかお米を収穫でき、収穫祭も実施することが出来ました。

ウクライナ戦争による小麦など食糧の危機を目の当たりにし、棚田を含む農業の大切さを感じる人が増えてきています。来年は川代での農作業体験が10年目を迎えます。多くの皆さまに棚田の魅力を気軽に感じていただけるよう続けていきます。

（杉山行男・小川順子）

## 岐阜県恵那市
## 棚田ビオトープ プロジェクト

### 今年もできました！

七十二候の「禾乃登（こくものすなわちみのる）」で稲が実り、ヒガンバナが咲く季節、まだまだ暑い9月23日（土／秋分の日）10時から稲刈りをしました。今回､参加者がおらず、私ひとりの稲刈りとなりました。しかし、坂折棚田保存会の鈴村さんや小森さん達がすぐ近くの棚田で機械を使って稲刈りをしており、私の「見守り」をして頂けました。稲刈りは田が大きくないため、１時間半ちょっと、はさ架けの代わりにビオトープの橋の上に束ねた稲を並べて終了しました。

春の水溜りに卵を産むヤマアカガエルの卵塊を探す「第17回かえるの卵を探そう！」は2024年３月20日（水／春分の日）に開催を予定しております。17年間「人間界」でさまざまな出来事があっても、「自然界」のヤマアカガエルは必ずこの時期、卵を産みます。

（相田　明）

## 静岡県松崎町
## 石部棚田で昔ながらの米づくり

### 今年も無事お米ができました！

10月7、8日に参加者8名で稲刈りとはざ掛け作業をしました。昨年、実験的に化成肥料を与えずに育てましたが、あまりの収量の減少で、イベント参加者へのお米のシェアが出来なくなりそうになったため、今年はオーナー田と同じ化成肥料を入れてもらったので、稲は明らかに成長が良く、見た目にも昨年より大幅に収量が増え、粒もかなり大き目に育ちました。ただ、今度は稲が成長しすぎて背丈が高くなり、海風を一番受けやすい私たちの田んぼは、かなりの稲が倒れてしまいました。稲作の難しさを感じる一年となりました。

11月4日にスタッフ二人で、収穫米を引き取りに行きました。籾にして189kgで、昨年の99kgからほぼ倍増の収量となりました。最後に3年目になる藁ぼっち作りを行い、今年も無事、米つくりプロジェクトが終了しました。1年間ご協力くださったみなさま、ありがとうございました！　（高桑 智雄）

「続く」を支える。

ヤマタネ

●ヤマタネHP

https://www.yamatane.co.jp/

当社は、重点取り組みテーマとして掲げている「持続可能なコメ調達の推進」を実現するため、株主優待制度の一環として、株主の皆様とともに棚田保全活動に取り組んでまいります。


## 棚田の応援団 わたしたちと〝棚田の応援団〟やりませんか!

棚田ネットワークは「棚田の保全に協力したい!」という会員によって自主的に運営されているNPOです。消えゆく美しい"棚田"をどのように保全していくことができるのでしょう? 一緒に考えませんか? ぜひ、私たちと棚田の応援団になりましょう!

**会員になろう!**

私たちは、会報誌「棚田に吹く風(年4回)やホームページで豊富な棚田情報を発信しています。会員になりこれらの活動に参加してみませんか?

**年会費**

○個人会員

| | |
|---|---|
| 維持会員 | 1口1万円(1口以上) |
| 一般会員 | 4,000円 |
| 応援会員 | 3,000円 |
| 学生会員 | 2,000円 |

### 法人会員を募集しています!

私たちは、棚田を守るため、農山村の人々と都市住民双方の協力のもとに様々なプログラムを企画・運営しています。これらの社会貢献活動に賛同し、ご支援いただける企業・団体・事業主様を募集しています。詳細はお問い合わせ下さい。

**年会費**

○法人会員(賛助会員)
1口3万円(1口以上)

## 編集部から

昨年は猛暑の影響で、全国の1等米の比率が過去最低で、特に新潟のコシヒカリは、なんと昨年の80・2%が3・6%に落ち込むという衝撃の結果となった。今年はほとんど取引が出来ない棚田もあるなどの悲鳴が事務局にも届いている。

そもそも米の等級とは、形が整った状態である「整粒」の割合をはじめ、皮の厚さや薄さ、粒の大きさなど外見上の特徴を表す「形質」が目視で行われるそうだ。つまり見た目重視ということ。しかし、石部棚田のお米は、粒も小さく、形も色もバラバラであるが、味は格別だ。

個性や多様性が大切にされる時代に、もはや見た目でランク付けするのは時代遅れなのではないだろうか。

## ホームページのぞき見て!

棚田ネットのWebサイトも見てみてください!

https://www.tanada.or.jp


棚田に吹く風

2024年 冬号 Vol.130

発行 認定NPO法人 棚田ネットワーク

〒160-0023
東京都新宿区西新宿7-18-16トーシンハイム新宿704号
Tel / Fax 03-5386-4001
e-mail: info@tanada.or.jp URL: www.tanada.or.jp
郵便振替口座: 00100-7-151565


[今回の表紙] 棚田サミット現地見学会・小阪の棚田(和歌山県那智勝浦町) 撮影:水野晴美